

# 火は正しく取り扱って 出火を防ごう

今年も全国一斉に「春の火災予防運動」が 3月1日から始まります

三月一日から七日まで全国一斉に「春の火災予防運動」を実施します。空気が乾燥し、強風が吹き付けるこの季節。火災がとも発生しやすくなります。火災の原因の多くは、ガスこんろの取り扱い不注意やたばこの火の不始末など、人為的なものがほとんどです。この機会に火災の恐ろしさを再認識し、住宅用消火器や火災警報器、防災製品を使用するなど、日ごろから家族でよく話し合い、各家庭から火災を発生させないよう対策を進めましょう。また、期間中は消防署などでさまざまなイベントを行います。お出掛けください。問い合わせは消防本部予防課 220 4507へ。

## 住宅火災をなくしましょう

### 家族みんなで火の用心

「あなたです 火のある暮らしの 見はり役」を統一防火標語に、三月一日 から七日 まで、全国一斉に「春の火災予防運動」を実施します。  
この運動は火災が発生しやすい時季を迎えることから、火災予防への理解を一層深め、火災による死傷者や財産の損害を防ぐことを目的に毎年実施しています。これを機会に、日ごろ忘れがちな火災に対する警戒心を呼び起こし、市・市民・事業者が一体となって火災予防運動を推進しましょう。

**住宅防火**  
火災種別のうちで最も多く発生しているのが建物火災。中でも住宅からの出火が半分以上を占めています。また、火災の原因もちよつとした火の取り扱い不注意から発生しているものがほとんどです（下図のとおり）。ストーブやガスこんろなど、各家庭で火を使う設備の点検や正しい使用方法の確認を行い、次の七つのポイントを心掛け、火災を防ぎましょう。

3つの習慣  
寝たばこは絶対やめる ストーブは燃えやすい物から離れた所で使用する ガスこんろなどから離れるときは必ず火を消す。

4つの対策  
逃げ遅れを防ぐために住宅

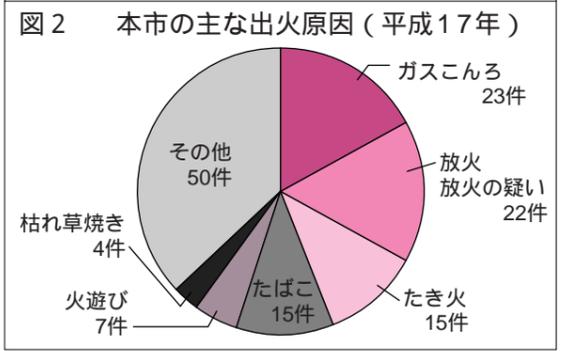
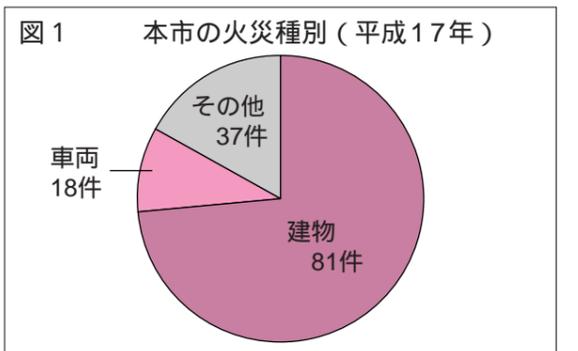


昨年の秋に西消防署が開催したイベントで消火体験に挑戦する子ども（消防防災広場）

## 森林を破壊する山火事

### 火の扱いには注意して

春先は降雨が少なく、空気が乾燥することから下草などが燃えやすい状態になります。延焼速度が早く、地中に熱を持ち長時間くすぶり続けることが山火事の特徴。消火活動が困難なため、被害が広範囲にわたり、地域社会にも影響を与えます。また、森林の焼失は保水能力の低下を招き、台風や集中豪雨のときには土砂災害などの自然災害を引き起こすことも。



火の元の確認を忘れずに

用火警報器などを設置する。なお、六月一日 から一般の住宅（共同住宅などを含む）も新築時に設置しなければならなくなりました。また、既存の住宅は平成二十年六月一日 から義務化されますのでそれまでに設置してください。寝具や衣類が燃えるのを防ぐために防災製品を早く知らせる。大きな声で火事を知らせ、隣近所に助けを求めましょう。早く消す。出火から三分以内が消火できる限度。いかに早く消火活動ができるかが重要です。早く逃げる。避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断しましょう。

**もしも火事になったら**  
万が一、火事になったら、次の点に注意し、慌てず落ち着いて行動しましょう。  
早く知らせる  
大きな声で火事を知らせ、隣近所に助けを求めましょう。  
早く消す  
出火から三分以内が消火できる限度。いかに早く消火活動ができるかが重要です。  
早く逃げる  
避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断しましょう。

## 消防体験やパネル展など イベント盛りだくさん

### 期間中の主な行事

火災予防の一斉広報 消防団の方面別訓練 独り暮らし高齢者家庭・一般住宅の防火訪問 電車・電庫庫・駅舎の査察 事業用バス・車庫などの査察 山火事予防の啓発など。各消防署などでの催し 幼稚園・保育所園児の消防車写真画展示  
日時 3月1日～7日、午前10時～午後9時 午前9時～午後5時 会場 はシヨツピングセンターアイム（大胡町）は南消防署  
消防防災パネル展  
日時 3月1日～7日（5日は除く）午前9時～午後5時 会場 南橋公民館 内容 防火ポスターなどをパネル展示 通信指令室の一般公開  
日時 3月1日～7日、午前10時～午後4時 会場 消防本部



119番通報の仕組みを理解

「消防ひろば」  
日時 3月4日 午前9時30分～正午 3月5日 午前9時～11時 会場 は消防防災広場（石倉町五丁目）は中央消防署 内容 消防体験コーナー、応急手当で講習など 火災防衛演習 老人福祉施設での火災を想定した大規模な訓練を実施します。  
日時 2月26日 午前10時～11時 会場 寿楽園（荒牧町）

防ぎましょう。枯れ草などのある火災が起こりやすい場所ではたき火をしない たき火から離れるときは完全に火を消す 強風時や乾燥時にはたき火や火入れをしない たばこの吸い殻は必ず消し、投げ捨てない 火遊びはしない